

集落支援員だより

第18号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 令和3年4月26日(月)

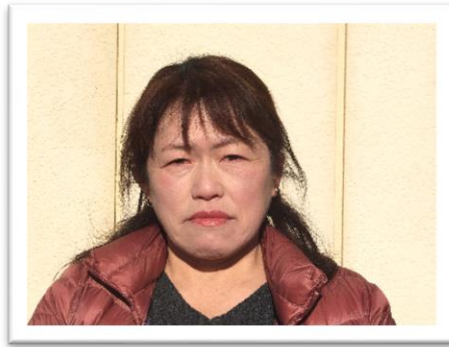


談話

地域を想う人紹介

ゲスト 佐藤美由紀さん

皆さん、りんごは好きですか？
私は羽山で主人と2人でりんごとさくらんぼ、米を栽培しています。



戸沢地区 農地利用最適化推進委員
佐藤 美由紀さん

嫁いだばかりの頃は、義父母とも元気で、4人で農作業をしていました。今は2人も老いてしまい、広い畑での農作業をたった2人でこなす毎日です。

りんごを通じた季節の移ろい

春、りんごの木が芽吹くとき、茶色だった畑にぼつぼつと緑の芽が出てきて、徐々に緑に染まっていくこの時期がとても好きです。

そして5月には緑に染まった畑に白い花が咲き、それもまた綺麗で

す。その花が実になり、秋には真っ赤に色づいたりりんごになります。一年間を通して、毎回素晴らしい景色を見せてくれます。

でも仕事に関わり始めた当初は、そんな景色を楽しむ余裕もなく、摘果であったり、草刈りであったり、終わりの見えない作業にいつたいつ終わるのか、と辟易していました。そんな日々もありましたが、20数年過ごし、今は真っ赤に実ったりんごでいっぱいになるであろう畑を想いながら作業をしています。

自然の豊かさ山里の現実

昔からりんごは食べていましたが、東和へ嫁に来て初めてこんなにりんごって美味しいものだと思ってきましたもちろんさくらんぼの美味しさにも驚きました。木で熟した果物を木から採り、その場で食べるのがとても美味しいです。それが出来るのも果樹農家だからですね。

果物に限らず、野菜や米も自分で作ったものはなんでも美味しいと思います。とはいえ、農業を仕事とする人も減ってきていて、地域全体の少子高齢化が進み、どんどん人が少なくなっています。そうなるとうまく手入れ出来ていた田

畑や土手の草刈りなども手がまわらなくなってしまうのだろうなと感じています。かといって、残っている人達で行くにも限界があるのでしよう。我が家もそうですが、自分の仕事で手いっぱいでも余裕がありません。なにか画期的な考えは出てこないのでしょうか。



取材

若い農業後継者紹介

ゲスト 氏家忠雄さん



戸沢 6 区
氏家 忠雄さん

戸沢字桑曾根に、ビニールハウス大小合わせて10棟、30アールの土地に春夏秋冬、切り花を植栽している若い農業後継者がいます、氏家忠雄さんです。

花卉農家

父の忠司さん夫妻は花を栽培して40年の超ベテラン、忠雄さんは親の背を見て育ち、花の優雅さに魅せられて何のためらいもなくこの道に入り、花卉栽培を行っています。今はカンパニユラとスプレー菊を栽培。カンパニユラは東和では「ボンツラ」かな？愛らしい花でピンクとブルー色があり、東和では殆ど目にしない珍しい貴重な花です。一度手にしてみても癒されますよ！

スプレー菊は殆ど仏用として使われており、自分が育てた花に皆に手を合わせてもらえることは大変な難いことであると冗談気味に話しておられました。

栽培管理

花は生き物なので、温度管理をしているとはいえ、天候と病害虫に細心の注意を払わなければならず、農薬の分量、土壌の消毒も行い万全を期していますが、ハウスへの害虫侵入を食い止めることはかなり

難しいこのことです。



▲ 栽培中のカンパニユラ

今後の展望

今後は、綺麗な花を市場に提供するのはもちろん、全国の皆さんに色々な形で花を手にもってもらい、花の市場価格が安定して推移していったらえればと忠雄さんは話しておりました。

今後は、花卉栽培の先駆者として活躍することを期待しています。



取材 薪炭作りに情熱を燃やす人

ゲスト 武藤清志さん

昭和の時代には、薪炭作りが盛んに行われており、山の峰々から立ち上る白煙の様はまさに田舎の風物詩といった光景でもありました。

昭和、平成、令和と時が過ぎ、石油事情も向上し、各々集落でも炭焼きをする人は極めて少なくなっております。

勤と経験の炭作り

そんな中、木幡鶴巻の武藤清志さんは炭作りに挑戦しており、平成9年に近所の先輩が炭窯を作り、それを譲り受け炭作りに精を出しています。



木幡 大実 取区 武藤 清志さん

木炭は、機械で作れる物でもなく、「勤と経験」が物をいう繊細な技術を必要とします。今では、炭を焼く人も椎茸の楕木(ほだぎ)を切る人も少なくなり、山は大木化してしまい、まさに獣の巣窟となりつつあります。しかし近年、炭も見直され、各方面での需要も高まり、良質のものは高値で取引されているとも聞いております。

炭火のあたたかさ

炭火で暖を取っている人は、何とも言えない心地よさを感じるといいます。化石燃料が限られている現在、炬燵で炭を燃やし一家団欒で会話が弾む、そのような時代が遠からず来るのでは？そして自然と共生していくことが私たちの生きる道ではないでしょうかと、武藤さんは話されています。



隠れ文化財

太田西谷区 いほ稲荷神社

急な石段をあえぎあえぎ登り、登り切った高台に古びた神社があり、遠き頃より、信仰心の熱い方々により社がたてられています。稲荷神社として集落内はもちろん、遠方の方々にも崇拜されてきた



▲ いほ稲荷神社

ようです。

西谷区穴戸商店より橋を渡り南へ150m、竹藪の中にその社があり、いにしへの面影を残しています。

日本では、古来より神社には動物を奉る風習があり、この稲荷神社も本尊様としてキツネを祀っています。また、この神社には特別な御利益があるといわれ、いほ完治に効き目があるらしい。拜礼に訪れた際に床下の砂を持ち帰り、その砂をいほ患部に刷り込むことにより、いほが徐々に消えていくとのこと。完治した際にはお礼として祭殿に卵を奉納するというのが習わらしい。今では「いほ稲荷神社」として崇められ近郷近在からお参りに来る人もいるようです。

—編集後記—

「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。どんな小さな活動でも取材に行きますので、載せたい情報等がありましたら、集落支援員までご連絡ください。

感染症予防には手洗いうがいの徹底はもちろん大切ですが、自己免疫力を保つために適度な運動、バランスのとれた食事、十分な睡眠も大切です。

東和支所地域振興課(集落支援員)
問い合わせ先：66-2490(直通)